

令和7年度 年度評価結果表

施設の概要等	施設名称	慶雲館		
	施設所管課	文化観光課		
	施設概要	慶雲館 【本館】 明治20年建築、延床面積:492㎡、構造:木造2階建、寄棟造、棧瓦葺 1階:展示室、床の間、2階:展示室、玉座の間(国指定名勝構成物件) 【茶室】 明治45年建築、延床面積:46.34㎡、構造:木造平屋建、棧瓦葺(国指定名勝構成物件) 【表門】 平成12年建築、延床面積12.60㎡、構造:木造、棧瓦葺(国指定名勝構成物件) 【中門】 明治45年建築、延床面積18.25㎡、構造:木造、桧皮葺(国指定名勝構成物件) 【露地門】 明治45年建築、延床面積4.40㎡、構造:木造、桧皮葺(国指定名勝構成物件) 【庭園】 明治45年作庭、国指定名勝物件 梅の館 平成12年建築、延床面積:723.78㎡、構造:鉄骨造2階建、棧瓦葺 1階:展示室、2階:展示室、会議室		
	指定管理者名	公益社団法人長浜米原観光協会		
	指定期間	R4.4.1～R9.3.31		
事業成果（令和7年度）	管理実施状況	管理運営業務	① 慶雲館条例第3条各号に掲げる事業の実施に関する業務 一 地域文化及び建造物に関する資料等の展示 二 保存資料についての説明及び助言 三 観光振興を目的とする特別展等の開催 四 建物及びその附帯施設等の公開と供用 五 その他慶雲館の設置の目的を達成するために必要な事業 ② 管理施設及び付属施設の維持管理に関する業務 ③ 管理施設の使用許可に関する業務 ④ 管理施設の使用に係る利用料金の徴収に関する業務 ⑤ 盆梅展の運営に関する業務 ⑥ 盆梅の育成及び管理に関する業務 ⑦ その他市長が必要と認める業務	
		自主事業の実施状況	・伊吹高校書道部書展 4/1～4/3(3日間) 220人 ・独創の象形～工芸3人展～ 4/26～5/11(16日間) 1,744人 ・長浜盆梅展フォトコンテスト作品展 5/17～6/1(16日間) 1,003人 ・慶雲館で魅せる苔の世界展 6/4～6/29(25日間) 1,666人 ・長浜国際芸術祭 長浜慶雲館美術館 7/26～8/20(26日間) 1,239人 ・盆梅の今昔展～盆梅になるまで～ 8/30～9/21(23日間) 873人 ・竹灯り展 10/1～10/19(19日間) 1,049人 ・スタジオアジュール梅アート展 11/8～12/7(30日間) 2,149人 ・第75回長浜盆梅展 1/10～3/10(60日間) 29,643人	
	利用状況	利用状況	令和7年度実績	令和6年度実績
			44,263人	39,164人
		利用者アンケートの結果	特記事項(増減理由等)	
			毎年公開の入館者数は、2,161人の増、長浜盆梅展は2,938人の増となった。最も入館者数が多い2月の天候が良く、梅の開花が進み来場者の出足が伸びたこと、2/1開幕の北近江豊臣博覧会と盆梅展の周遊促進として200円割引の共通券販売や施設間の送迎バス運行を実施したことなどが要因と考えられる。	
			評価区分	
		実施概要	方法:盆梅展の来場者のアンケート 期間:盆梅展開催期間	最多項目 満足度 評価 ○ 非常に満足度が高い
		結果	県外からの来場者は約48%、初めて来た方は約37%であった。「満足」「やや満足」の合計は85%以上であり、満足度が高く、リピーターが多いことがわかった。	満足度が高い
		利用者の声をふまえ、反映した事項	伝統的な本来の盆梅の魅せ方を活かしつつ、バージョンアップを図る。	普通
	収支状況	施設における収支	令和7年度実績	令和6年度実績
		収入(千円)	48,639	45,314
		(指定管理料)	8,912	8,912
		(利用料金収入)	24,901	19,391
		支出(千円)	46,225	46,306
		特記事項(増減理由等)		

2月の天候が安定し、梅の開花が進んだこと、博覧会との共通券販売、施設間送迎バス運行、映画撮影ロケ地としての利用などの要因もあり、収入は昨年比増と

	その他特記事項	特になし		
年度評価	評価項目	主な評価の視点	配点	評価点
	①設置目的の達成の取組	施設の設置目的の達成、利用者サービスの向上	40	26
	②効率性の向上等の取組	経費の節減等、収入(利用者)の増加	25	19
	③適正な管理運営の取組	経理状況、管理運営費の実施状況、公共性・安全性等の確保	35	28
	合計		100	73
	年度評価及びコメント	年度評価 B 北近江豊臣博覧会と連携しての共通チケット販売、施設間送迎バスの運行などの様々な取組から入館者数、収入額ともに昨年度より増加した点は評価に値する。 大河ドラマ・博覧会終了後も収支を継続させるために、国指定名勝の日本庭園を活かした外国人向けのインバウンド事業や、新たな企画の実施など、さらなる入館者の増加に向けての多面的な事業展開に期待したい。		